

取産 香遺

Vol.76

「紀州商人と近江商人」 他国商人がつくる街



▲植田屋荒物店



▲紀伊国屋商店

震災以後、ルーツ（先祖）探しが静かなブームだといわれます。そのきっかけのひとつが、星野博美さんの『コンニャク屋漂流記』（文藝春秋社、2011年）という本です。著者の先祖は、江戸時代に和歌山から外房へ移住し、「コンニャク屋」の屋号を持つ漁師だったそうで、同書はこうした自身のルーツを探るノンフィクションです。

実は、千葉県は紀州（現在の和歌山県）とのつながりが深い土地柄です。銚子のヤマサ醤油の創業元である浜口家が紀州出身の商人であることはよく知られていますが、佐原にある、塗り物や陶器を扱う紀伊国屋商店もその一つです。「紀州漆器」は日本三大漆器にも数えられる、江戸時代以来の特産品です。紀伊国屋商店の初代当主は現在の和歌山県有田市の出身で、明治7年（1874）に佐原の地に店を開いたと伝えられます。

佐原の伝統的な町並みに店を構える植田屋荒物店も現在まで続く「近江商人」です。初代の植田屋利兵衛は、近江商人の出身地として有名な近江国蒲生郡（現在の滋賀県近江八幡市）の生まれで、すでに銚子で商いをしていた植田屋徳兵衛店から暖簾分けをして、宝暦9年（1759）に佐原に店を開きました。

江戸時代後半から明治時代にかけて、江戸との舟運によって栄えたこの流域には、こうした紀州商人や近江商人の系譜を引く家が何軒か現存しています。古くから暮らす商人たちだけでなく、紀州や近江など遠隔地から新たに移住した他国商人たちの存在と活動が、この地域の経済と文化の発展に大きな支えとなっていたのかもしれない。今改めて、ご自身と家族のルーツを探ってみてはいかがでしょうか。

全国を股にかけて活躍する商人に「近江商人」がいます。

問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54)1118